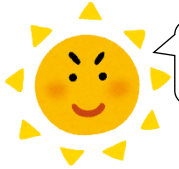
９月図書便り

令和8年9月　植木北中学校図書室

夏休みに借りた本を返して、すっきりと2学期スタート!

暑い暑い夏休みでしたね。でも、登校してきた皆さんの元気な表情から、楽しく有意義な夏を過ごしてきたことがうかがえました。9月もまだまだ暑さが続くようです。昼休みはゆっくり読書をして過ごしてはいかがですか。読書に快適な空間を作って、お待ちしています!

夏休み用図書の返却は、９月４日（金）までにお願いします。



目指せ！一人２５冊

☆☆１学期の貸出数と多読者！☆☆

1年1組	375冊	一人当たり 16.3冊
1年2組	386冊	一人当たり 19.3 冊
（1年生）	761冊	（一人当たり17.6 冊）
2年1組	307冊	一人当たり 13.3 冊
2年2組	270冊	一人当たり 11.3 冊
（2年生）	577冊	（一人当たり12.3 冊）
3年1組	461冊	一人当たり 18.4 冊
合計	1799冊	一人当たり 15.6冊

1位　青木陽さん
106冊　3年
2位　椎葉ゆらりさん
64冊　3年
3位　工藤花音さん
50冊　2年
4位　藤田吏音さん
49冊　3年
5位　森実桜里さん
46冊　1年
6位　吉田陽愛さん
40冊　3年

たくさん読んでくれて、とってもうれしいです!

本を読むと、どんな効果があるの？

「読書は、なんとなく良さそう」と思う人は多いようですが、実際、どんな効果があるのでしょう?いろいろなデータの中から、4つを取り上げてみました。

（1）知識が増える

「ざんねんないきもの事典」を読むと、いつの間にか動物のことに詳しくなります。「なぞかけ運動会」を読むと、「〇〇とかけて、△△ととく、その心は・・・」といった江戸時代に始まった言葉遊びにふれることができます。この他、スポーツの効果的な練習法や歴史人物について知ることもでき、知識が増えるのが読書です。

（2）脳が活性化する

本を読むことで、脳のいろいろな部分が同時に働くそうです。例えば、文字認識の後頭部、言語理解の側頭部、創造性や判断に関わる前頭前野、勘定処理の偏桃体などが働き、脳全体の活性化につながります。

（3）言葉の数が増える

読書を通じて、普段使わない表現や難しい言葉に触れることで、語彙量が増え、文章力や会話力が向上します。これにより、自分の考えや感情を正確に伝えられるようになると、人間関係によい影響を及ぼすようになります。

（4）共感力が向上し、視野が拡大する

小説や文学作品を読み、登場人物の置かれた立場や感情を疑似体験することで、他者の気持ちを推測する能力や共感力が向上します。また、自分ではとうてい経験できないことも、読書では経験でき、視野を広げることができます。

☆「本を読めば、すぐに何かが変わる」ということではありませんが、じわじわ効果が表れるのが読書です。図書室には、いろいろなジャンルの本があるので、2学期は、手に取らなかった棚の本にも注目してみてください。特に、「Teens library」は、ぜひ読んでほしい本を集めた棚です。お気に入りの本を探してみてください。